

僕は宝くじを買わない

そう、宝くじって 買おうって思ったことがないんだ。(二度程買ったけど)

なぜなら、叶える為の夢をみたいから。って、言葉にすればカッコ良さすぎるけれど、要はお金って額に汗して得るもの、と思うから。

子供の頃、何か欲しい物があっても手に入れるにはそれなりに苦労していた。特に貧しかった訳ではないけれど、兎に角いつでも両親は働いていた。小学生も高学年の頃には、父の仕事(大工をしいた。)についていっては何か手伝いをして、その「対価」として(割に合わないかったらうな。)欲しい物を買って貰ったし、物によっては「あと何日手伝え」って、お金の大きさ、重さを自然と学んでいた。中学生になったら、松本から広丘まで 自転車で父の現場まで通った事もあるし、その自転車も 兄がかってアルバイトをして手に入れたものを、父の仕事の手伝い賃で 兄の「お古」をゆずって貰ったあの頃の僕の自慢だった。高校生の時はアルバイトをして自分の卒業式用の服から、教習所へ通う費用まで全部自分で工面をした。親が用意してくれるほとんどの仲間をうらやましいとも思わなかったし、自分を悲観した事もなかったなあ。子供の頃からずっとになりたい職業があったし、早く卒業をしてその夢を叶えたかった。結局、色々あってその夢は叶えられなかったけれど、脱サラをして自分の店を持つ、という目標は達成出来た。

今はマスターとして カウンターに座るお客さんの、楽しそうに語る「夢」のはなしを聞いている。：ジャンボが当たったらどうしよう!。って興奮ぎみに語っているのを聞くのは大好き。でもね、僕は宝くじを買わない。一歩ずつでもそこに向かっていけば 必ず叶うって、信じているから――。

(児玉理)

カフェ・シネトラッセ
http://kaffee-strasse.blog.ocn.ne.jp/



今月のほんこ



9

月号です。

夜のさんぼは、長野県の朝日村に住む創っている人が作っているフリーペーパーです。先月お休みしてしまいました。また今月から、ぼちぼち発行していこうと思います。慣れないことを続けるというのは、中々大変な事ですね。それでも、最近は夜のさんぼを楽しみにしているという声も聞こえてきます。感謝です。またお会いできる機会がありましたら、どうぞ感想などお聞かせ下さい。

編集後記

朝日村つくりびとのブログも見てみてくださいね!
<http://asahinobjyutsukan.blog136.fc2.com/>
夜のさんぼのバックナンバーもこちらから読めます!

夜のさんぼ

朝日村の創っている人が作っているフリーペーパー

2012年 9月号(vol.7)



✉ hankoya.noraneko@gmail.com

このフリーペーパーを創っているひとたち
藤牧 敬三(クラフト) / 下田ひかり(現代美術) / 児玉 理(自家焙煎珈琲) / やぎさなおみ(消しゴムはんこ)
表紙の写真 / 百頭たけし(web写真家) HP 山ヲ煮ル... <http://d.hatena.ne.jp/hyakutou/>

スケルスタジオ
プロジェクト

賃貸物件のリノベーションプロジェクト
【スケルスタジオプロジェクト】はじまります。

【スケルスタジオプロジェクト】
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

オープンスタジオ受付
TEL 03-5561-1000-1000
TEL 03-5561-1000-1000
TEL 03-5561-1000-1000
TEL 03-5561-1000-1000

十二天 haluta Scene Design 八咫 Link



言葉にならない形のはっこ vol.7

原風景

僕は家具や木工品を見る事・つくる事が好きですが、それと同じくらい建築が好きです。建築の中でも建築家の創る斬新な建物よりは、住まい生活する事・居心地のよい事に赴きをおいてつくられる建築のほうが見ても、その場所に佇んでも気持ち良く癒されます。

以前より付き合いのある建築士の宮本主さん（シーンデザイン建築事務所）が長野市界隈の古い賃貸住宅を設計・リノベーションして提案・提供する試みをはじめました。

リノベーションといっても貸手であるオーナー・適した物件を探し仲介する不動産業者・そこに住まう借手があって成り立つ時間のかかる試みですが、この数十年、多くの一般住宅の建築が旧態依然としていてこんな住宅があったらいいのにと思っていた事が現実になりこれから始まるうと思っています。

スケルスタジオとはこの企画をした人達が考えた造語で、パターン化された既存の古い賃貸住宅を魅力的にリノベーションし住まう人が自分好みに色付けていく工房（スタジオ）をイメージしているようです。

建築士が設計する住宅は多少の手間やお金も掛かるのですが、住まう人の生活スタイルや考えを一旦整理して、ポリシーや生活の中の美を提案してくれるのが設計士の役目だと思っています。主体性も美も自分には必要ないと思っています。人もいるかもしれませんが、自分が慣れ親しんだ考えを客観的に見直してみても、外部の価値観を一旦受け入れ主体性をもって新たな試みをする事が自身の向上ではないかと思えます。

今回の第一号の真つ新なスケルスタジオを使って、家具工房スタイル・ガレが色付け・コーディネートする機会がありまし

私は団地や廃墟や、日本の都会のゴミゴミした町並みなどが凄く好きで、いっそ工場の隣に住みたいと思うくらいだけれど、それらの風景は自分の作品には殆ど登場しない。それはやはり、自分の原風景にその景色が存在しないからだと思う。

私は長野県の朝日村で生まれ育ったけれど、周りには山と田んぼと畑という本当にそれ以外ないような所で、畑に至っては殆ど地平線状態になってどこまでも続いている。

この地平線と・・・夜に浮かぶ山の輪郭や、闇の中の風景は自分の制作に相当影響しているようだ。

地平線の方は少し覚えがある。幼少の頃、両親共に働いていて、私は祖父母に連れられて畑に行っていた。そして、母親の帰ってくる（であろう）方向・・・地平線の向こうをずっと眺めていた、という記憶がある。

夜の方の理由は明確に分からないけれど、絵本で読んで貰った世界と、自分の家の周りの雰囲気近かったからかもしれないと思う。

読んで貰った絵本の中には「怖い」ものも数多くあった。ホラー的なとか、おぼけが出てくるものでもなくて、「迷子になる」だとか「ひとりりで冒険に出る」だとかいう、孤独を強調するような内容に「怖い」と思っていたように思う。おそらくそれは、作者の意図しない所だろう。しかし、その「怖い」ものは、べつに嫌いなものではなかった。どちらかというと興味があるものだった。怖い物見たさというか、親しみやすさというか。

そして、そういう絵本は、夜の話が多

た。この部屋は流しの付いたオープンなキッチンカウンター・トイレ・シャワールームと約1畳のリビングの最小限の1Kの部屋ですが、住まいとしてだけでなくアトリエやお客を招くビジネススペースなど色々発想が広がる空間です。ディスプレイのテーマが、心地よいインドア生活、休日ときどきアウトドア。として自分好みの生活スタイルをそのまま表現してみました。

置かれている家具やカトラリー・小物は自身の作品ですが、好きな器作家の作品やオブジェ的なモノも所々展示しています。フロアリングの部屋椅子に畳を敷いてゴロゴロしたり畳椅子に座って本を読んだりまたオープンなキッチンで料理をして、気に入った器でお酒を飲んだり、食事をします。好きな音楽を聴き、時々アロマを焚いたりコーヒを点てたりインドア生活に飽きたら山登りしたり、普段の生活に近いディスプレイになりました。

仕事以外はありません。長く住まう空間はモノを少なく最小限にし、丁寧かつ大事にしていきたいと思っています。また今回スケルスタジオとのコラボ展示をすることでスタイル・ガレの生活道具の提案が具体的になったように思えます。

今後、長野市だけでなく松本界隈でも同じようなプロジェクトの動きがあるようです。興味のある方は、スケルスタジオでネット検索して頂くと今までの動きをご覧いただけます。

（藤牧敬三）

スタイル・ガレ <http://www.stylegalle.com/>

かった。様々な絵本から影響されて出来た私の夜の夜は、暗い中に何かが見えていて、こちらを見ているような・・・恐ろしいものではない、友達のような空気が居る世界。しつとりと沈んだ空気が、ぶきみだけどこ心惹かれ、同時に落ち着く感覚。私の心にある夜は、しかしとても身近に存在していた。何しろ、一歩外に出ると現実世界の世界が広がっているのだ。というか、今も割と変わらずにそこにあつて、当時の感覚を思い出すことができる。

そういう、寂しさに裏打ちされた光景や、毎晩のように体感していた絵本の世界。それらが今の私の原風景であり、作品のテーマやモチーフを変えても、変わらない根底部分であると思う。

最近では特に、その夜のイメージが自分の中で非情に強い存在になっていて、描く作品は夜をモチーフにしたものが多い。

原風景は、ふとした瞬間瞬間に心の中で頭をもたげ、ゆっくりとイメージとして広がっていく。まるで池ができるように。

そうやって、だんだんと私の世界が構築されていくのだらう。

（下田ひかり）

<http://hikarishtimoda.com/>

